

※漢文についても、古文の時のように(1)ジャンル、(2)時代、(3)書名、(4)作者名を記憶してもらおう必要があります。ただし、声に出して自分の耳からも記憶させておく作業は、古文以上に大切だと考えます。

画竜点睛 (これも現代仮名遣いで読み書きできますか?)

① P 170 歴史的仮名遣いで書かれたふりがな、送りガナを現代仮名遣いに直してみよう。

L 1 張僧繚 L 2 画云 L 3 即以妄誕請須臾 L 4 騰

(学習書 P 207 上段 書き下し文のふりがな、送りガナを参照)

② 助動詞・助詞にあたる漢字はひらがなに直して書き下し文とします。

L 1 吳中人也。(なり) L 2 不点眼睛。(点ぜず)

③ 再読文字は右のふりがなを先に読み、左のふりがなを返り点に従って後から読む。書き下し文にするときは、二回目に読む文字は助動詞なのでひらがなにします。

L 4 未点眼者 (学習書 P 207 上段 書き下し文参照)

④ ハイフンのある熟語は連続して読みましょう。

L 4 崇飾仏寺、 (学習書 P 207 上段 書き下し文参照)

・L 2 「四白竜」はL 4で、両竜(飛び立った竜)と二竜(絵の中に残った竜)に分かれてしまう。「両」は「二」という意味。(例) 一挙兩得：一回手を挙げただけで、二つのものが手に入ること。

罫 「請点之」の後には、どういう内容が省略されているか。…この部分の前は「不点」だったのに、この部分の後に「両竜」が「乗雲」「騰去」とあることから、周囲の人が無理矢理に僧繚に描かせたらしいことが想像できる。

学習 **罫** 現在では「画竜点睛を欠く」という言い方で使われることが多い。

※誤字に注意! **晴** **晴**と間違えないこと。「目」へんで、つくりは「青」ではありません。

推敲 (現代仮名遣いで読み書きしましょう。)

① P 171 歴史的仮名遣いで書かれたふりがな、送りガナを現代仮名遣いに直してみよう。

L 1 賈島 L 3 大尹乃言遂 (学習書 P 209 上段 書き下し文のふりがな、送りガナを参照)

② 助動詞・助詞にあたる漢字はひらがなに直して書き下し文とします。

L 1 僧推月下門之句。(僧推月下門の句。) L 2 推敲之勢、(推敲の勢、) L 2 不覚(覚えず)

③ 再読文字は右のふりがなを先に読み、左のふりがなを返り点に従って後から読む。書き下し文にするときは、二回目に読む文字は助動詞なのでひらがなにします。

L 2 未決 (教科書には「ず」は終止形のため記載されていないが、分かり易さのためここでは書いてある。)(学習書 P 209 上段 書き下し文参照)

- ・教科書P 171 下段⑦ 勢：しぐさ、とあるが「姿勢」という言葉を思い出せば簡単でしょう。
- ・L 3 「衝突」という読みだが、「衝突する」という言葉を思い出せば簡単でしょう。
- ・L 3 「具サニ」は「詳しく」という意味だが、「具体的に」という言葉を思い出せば簡単でしょう。
- ・教科書P 171 下段①、⑨ 「字」は浪仙、「字」は退之、とあるが「字(あざな)」とは、元服(成人)後、本名以外に名乗る呼び名。本名は両親や目上の者以外には呼ばれなくなり、同輩には字で呼ばれることが普通になります。
- ・L 3 「矣」は断定を表す置き字。書き下し文にはしないが、「イ」と発音する文字です。

罫 「具言」の内容は何か。…前の場面で「大尹韓愈に衝突する」とあり、「衝突した理由」を述べていると思われる。この理由が上手く言えないと、きつと処罰されるでしょう。

※実際の賈島が詠んだ漢詩は裏面にあります。

寓話とは
 教訓的な内容を、他の事物、
 主として動物にかこつけて表わ
 した、たとえ話。

閑居少鄰竝
草徑入荒園
鳥宿池中樹
僧敲月下門
過橋分野色
移石動雲根
暫去還來此
幽期不負言

国語総合の復習です。
Q 1 この詩の形式は？
Q 2 四つの漢字を□で囲んであるのはどういう意味があるか？

朝三暮四

① 養ヒテ 俄カニシテ 先ヅ 与フルニ 若ニ 芋 日ハク 以ツテ 猶ホ
 ② P 172 L 2 狙之意 (狙の意) L 2 3 公之心 (公の心) L 3 狙之欲 (狙の欲) L 4 衆狙之 (衆狙の)
 L 5 也 (や) L 6 乎 (か) L 8 物之 (物の) 也 (なり) P 173 L 1 狙公之 (狙公の)
 不虧 (虧けずして) 也 (なり) L 1 2 使其喜怒 (其れをして喜怒せしむる) L 2 哉 (かな)
 ③ P 173 L 4 将限其食 (将に其の食を限らんとす) L 8 猶此也 (猶ほ此くのごときなり)
 P 173 L 1 猶狙公之以知籠衆狙也 (猶ほ狙公の知を以て衆狙を籠るがごときなり)

置き字
而・焉・於：書き下しの時は書かない、音読もしない文字。

・能解狙之意：「能」は「能力がある」「〜できる」ということ。

問 最初に「朝三而暮四」とし、次に「朝四而暮三」と変えたねらいはどこにあるか。：猿たちにとって、一日の始まりである朝食に食べられるドングリの量が多い方がいいので、それを先に言うか、後に言うかで印象が変わることに注意。

背水之陣

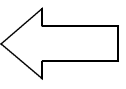
① P 180 L 4 張耳 以兵 L 6 曰 逐我 若 先 出 戦 伴
 P 181 L 1 逐 戦 失 夾撃 L 6 問 曰 曰 出 戦 伴
 ② P 180 L 6 従間道 (間道より) L 7 8 使万人先背水陣 (万人をして先づ水を背にして陣せしむ)
 P 181 L 7 何也 (何ぞや) L 7 8 兵法不曰陷之死地而後生置之亡地而後存乎 (兵法に之を死地に陥れて而る後に生き、之を亡地に置きて而る後に存すと曰はざらんやと)

置き字
P 181 L 7 而 (背にしての「て」にあたる接続を表す置き字)

・ P 180 L 6 走グル 逃げる 「敗走」という熟語を思い浮かべられるでしょうか？「敗れて逃げる」ことです。
 L 8 平旦：「旦」は朝を表す漢字。「元旦」は一月一日の朝。地平線 (水平線) から太陽が見えてくる時刻を表現している。

ハイフンのついた部分の読み方 P 181 L 6

右ニ倍山陵



- (1) 左下に何も記号のない「山」を読む。
- (2) 左下に「一」のついた「陵」を読む。
- (3) 左下に「二」のついた「右」を読む。
- (4) ハイフンで繋がった「倍」を読む。

「山陵を右にし倍き」 Q 1 「左前水沢」を同様の方法で読んでください。

上下点のある文の読み方 P 181 L 7 8

「兵法不曰『陷之後生、置之亡地而後存乎。』」

- (1) 左下に何も記号のない「兵法」「之死」を読む。
- (2) 左下に「一」のついた「地」のあと、「二」のついた「陷」を読む。
- (3) 左下に何も記号のない「而後生」を読む。
- (4) 左下に何も記号のない「之亡」を読む。
- (5) 左下に「一」のついた「地」のあと、「二」のついた「置」を読む。
- (6) 左下に何も記号のない「而後」を読んだ後、「上」のついた「存」から、「下」のついた「曰」に戻る。
- (7) レ点で「不」を読んだ後、「乎」を読む。

「兵法に之を死地に陥れて而る後に生き、之を亡地に置きて而る後に存ず」と日はざらんやと。」

問 「陥之死地…而後存」を、韓信はどのような方法で行ったのか。(川を背にして逃げ道をなくすという方法)

中国の詩

・王維…詩仏
 ・杜甫…詩聖
 ・李白…詩仙

それぞれあだ名があるので覚えておこう。

鹿柴

起句…不_レ見_レ人 レ点で一次ずつ返る。「不」はひらがなにする。

転句…返景_ニ夕日(赤い)。結句の青苔との色の対比。「入_ニ深林_ニ」「一」のあと「二」を読む。深林に入る)

押韻…響(kyou)、上(jou)

問 「但聞人語響」とはどういうことか。…起句で「不見人」とあるので、あたりに人は見えない。だから「人語」とは「どこから聞こえてくる人の声」である。

絶句

起句・承句…四色の色が景色に使われていることが分かりますか? 「然」が何色の、どんな花を表すか考えてみましょう。

(学習書P228上段)

押韻…然(nen)、年(nen)

問 「看」には作者のどのような気持ちが表れているか。「又」とあわせて、今年もまたどうすることもできず季節が過ぎていくことを表す)

不出門

対句 (三句)	都府楼	纒	看	瓦色
(四句)	観音寺	只	聴	鐘声
(五句)		中懷	好	逐
(六句)	外物	相	逢	満月
		迎		去

押韻…荆(gyou)、情(jou)、声(syou)、迎(gyou)、行(gyou)

一_句…従(助詞のため「より」とひらがなにする) 二_句…兢 兢 踟躕 三_句…纒 四_句…逢 五_句…逐 六_句…逢

※漢詩の頻出のテーマ※ くレポートの三つの詩は、どのテーマで詠まれているか、考えてみようく

・四季 ・自然 ・旅情 ・友情 ・戦争 ・家族 ・別れ ・老い ・不遇な人事